



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



チーム医療教育の充実

歯学部長 宮崎 隆

今年の夏は異常気象で、全国で大きな被害がでました。国民に不安感が高まった中で、オリンピックの東京誘致



が成功したニュースは、私たちに元気を与えてくれました。劣勢を伝えられていた中で、チームとしての取組が勝因であったとのことで、チーム医療とその教育を推進している本学にとっても大いに自信につながりました。

本学におけるチーム医療教育は、小口理事長ならびに歴代の細山田学長、片桐学長、小出学長の強いリーダーシップと高木教授を中心とするオール昭和の教育推進室の先生がたの御尽力で、初年次の全寮生活から高学年の病棟実習や地域医療実習まで着実に定着しつつあります。従来の歯科医療の守備範囲が、歯や口腔とその周囲に限局されていたので、歯学教育はどちらかという狭い専門性に向かう傾向がありました。本歯学部では医系総合大学の環境の中で、チーム医療の一員として国民の健康に貢献する新しい歯科医師像を打ち出し、片岡教授(歯学教育推進室長)を中心に、チーム医療と口腔医学を歯学部のカリキュラムの大きな柱として実践してきました。学内における4学部の連携だけでなく、地元歯科医師会の協力を得て地域におけるチーム医療教育にも鋭意取り組んでいます。新しいチーム医療教育を受けた学生が卒業するようになりましたが、着実に成果があがってきたと実感しています。

本学は作家の曾野綾子さんと一緒に、公益財団法人笹川記念保健協力財団に協力して、アフリカのマダガスカル共和国における口唇口蓋裂医療協力に専門家を派遣しています。本プロジェクトは3年前にスタートし、形成外科の土佐准教授と麻酔科の安本教授(当時)を中心に医療チームを編成して、アンチラベ市のクリニックアベマリア病院で活動を行いました。2回目の昨年は、医学部と保健医療学部看護学科の学生が参加しました。3回目の今年は、6月18日から7月2日まで、医師4名、看護師3名に加えて、4学部の学生が参加し、歯学部からは6年生の橋本アメリ

一さんが参加しました。4学部の学生にとっては、口唇口蓋裂医療や手術だけでなく、現地の公衆衛生事情や国際協力の観点からも大きな経験になったようです。9月9日に、笹川記念保健協力財団主催の報告会が開催されました。曾野綾子さんからこの事業を発足させた経緯の紹介と昭和大学の協力への感謝の挨拶がありました。医療支援の概要を土佐先生ほかの専門家が報告したあとで、学生代表の橋本さんが、学生の立場から見た現地の公衆衛生や医療施設の現状、さらに医療チームの一員として参加して学んだことを報告してくれました。

長年国際医療協力活動に携わってきた財団の喜多理事長は、医療活動や教育でinterdisciplinaryが求められているなかで、医歯薬看護の学生チームで海外に医療活動に参加した例は世界でも前例がなく、参加した学生の今後の医療人としての将来に期待すると締めくくりました。

本学からチーム医療の視点をもって、国民の健康に貢献できる真の歯科医療人が社会に羽ばたくことを楽しみにしています。

昭和大学歯科病院臨床研修歯科医採用試験が実施されました

歯学教育研修センター 長谷川 篤司

平成26年度臨床研修歯科医の採用試験が9月7日(土)に旗の台校舎5号館(面接試験)と4号館(学識試験)で実施されました。



本学の研修プログラムは1つの診療部署で長期間(6か月または12か月)じっくりと研修できると同時に、重要な必修コース(全身管理研修、口腔ケア研修、画像診断研修)を短期で効率よくラウンドできることを特徴としています。受験者数は4プログラム合計100名の募集に対して19大学から281名(新卒232名、既卒49名)であり、このうち本学出身者は116名(新卒97名、既卒19名)でした。当日東急線での人身事故によるダイヤの乱れがありましたが受験生との良好な連絡で混乱なく実施終了できました。

歯学部PBLファシリテータ養成ミニワークショップが開催されました

口腔解剖学講座 中島 功

平成25年8月31日(土)午後には歯学部PBLファシリテータ養成ミニワークショップが旗の台1号館において開催されました。受講者は16名、タスクフォースは12名で、タスクフォースならびに参加者の自己紹介に続いて中村PBL委員長から、歯学教育においてなぜPBLが行われるようになったか、昭和大学歯学部におけるPBL導入の流れ、PBL実施の基本的な流れ(ステップ)などの話があり、次いで2グループに分かれて体験PBLが行われました。今回の体験PBLは1年次の学部連携PBLで用いられているシナリオを用い、ファシリテータはタスクフォースが行いました。体験PBLに続いて、各グループにおいて作られたマップと学習項目についての検討が行われ、その後ファシリテータとして“どのようにファシリテートするか”を理解するために、“ファシリテータとしての役割や評価の仕方”の説明があり、さらに“PBL実施中に生じる問題点に対する対応例とその解説”が行われました。参加者は皆非常に熱心に取り組んでいましたが、半日で行ったミニワークショップであったために時間的にはかなりタイトで、主催する側としてのいくつかの問題点が提起されました。



歯学部オープンキャンパスが開催されました

入学支援課 太田 麻美

平成25年8月4日(日)と25日(日)に本学洗足キャンパスにおいて受験生を対象に歯学部オープンキャンパスを開催し、それぞれ、53組101名、59組102名の参加がありました。

4日のオープンキャンパスでは、口腔病理学 美島教授から『今後の社会を見据えた歯科医療と本学の教育の特色』と題する模擬講義と、レジン充填やバーチャルペーシエントの操作体験を、25日のオープンキャンパスでは、口腔リハビリテーション医学部門 高橋教授による『口腔ケアの重要性』についての模擬講義や、インプラントセンター・口腔リハビリテーション科・小児歯科の診察ブース見学ツアーを行いました。また、参加者でペアを組み、聴診器を使ってお互いの嚙下音を実際に聞く体験も行いました。参加者からは、『実際の歯科医がどのようなことが行うのが理解できた』『模擬講義が大変よかった』『バーチャ

ルペーシエント操作体験は、本当に患者さんとお話しているような気持ちになれた』『実際に歯につめものを入れたりして楽しかった』等の意見があり、富士吉田オープンキャンパスに引き続き8月4日、25日のオープンキャンパスも大変好評のうちに終了することが出来ました。

来月10月12日(土)には、旗の台キャンパスにて、4学部合同入試説明会を実施致します。

1年の間を通して、6月～10月がオープンキャンパス・入試説明会の時期になっています。10月12日(土)は今年最後の本学での入試説明会となっており、当日は、入学支援課による個別相談を実施する予定としております。



大学院秋季入試が行われました

大学院運営委員長 佐藤 裕二

9月7日に大学院秋季入試が行われました。午前が語学試験、午後が専門科目試験です。9月19日に合格発表があり、一般選抜1名、社会人特別選抜3名の4名が合格しました。昨年度の秋季は受験生が1名でしたから、今年度は増えました。入学式が10月1日に行われます。なお、同時に施行した学位申請のための語学試験では4名が合格しました。

春季Ⅰ期入試が12月7日に行われます。願書締め切りは11月25日です。優秀な大学院志願者がさらに大勢来てくれることを願っています。春季Ⅱ期入試のための説明会は11月26日です。なお、本年度から、昭和大学大学院全体のパンフレットが作成され、大学院歯学研究科のホームページからも閲覧できます。昭和大学大学院の魅力を十分にアピールするものとなっています。

歯学研究科

広い視野を養い、多様化する歯科医療のニーズに応える。

近年、歯科医療は多様な患者のニーズに対応するよう進化を遂げ、幅広い領域が求められています。歯学研究科では、最新の医療技術と高度な臨床スキルを身につけ、患者の健康と生活の質を向上させることに貢献しています。



IADR-APR で発表しました

歯内治療学部門 山田 嘉重

本年8月21日から23日にタイのバンコクで開催された第二回 International Association for Dental Research - Asia Pacific Region に大学院生の鈴木重紀先生と一緒に参加・研究発表をしてきました。本大会



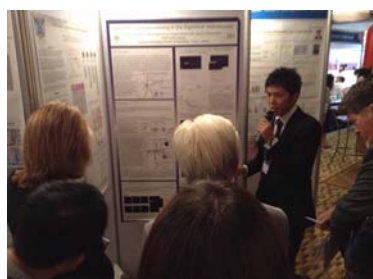
は全世界に11000人以上のメンバーを持つIADRのアジア部会です。本学会のテーマは“*We are the Future*”であり、アジア地区の研究成果を全世界の口腔衛生の向上の寄与に役立てようという壮大なものでした。夏の暑い時期での学会にもかかわらずアジア以外の国もあわせて約45カ国、1100人が出席して、ホットな議論が交わされていました。私は新規試作齶蝕除去剤の齶蝕除去効果について、鈴木先生はキトサンを応用した根管洗浄剤について研究成果を報告してきました。発表後には幾つもの質問が出され、さらなる研究推進が必要と気を引き締める良いきっかけとなりました。また東京医科歯科大学小児歯科学教室で後輩であったポーンポットファンターンティブ先生の計らいで彼が働いているマヒドン大学歯科病院の視察をする機会を得、日本とタイの大学病院の違いを肌で味わうことができました。今回の学会に参加することで研究成果を国際大会で発表する意義に気がつく良い機会となりました。

IADR-APR で発表しました

D5 中井 健人

8月21日から23日にかけてタイのバンコクにて開催された「IADR-APR 2013」に参加し、Poster-Discussion 形式での発表を行いました。

本大会にはアジア各国からの候補者が参加し、どの学生・研究者も意識高く研究に励んでおり、今後の歯科医療の発展につながるような興味深い内容を発表していました。開催国ということもありタイの学生も学会に多数参加していましたが、貪欲に学ぼうという強い意志と姿勢を学会場で目の当たりにし、良い刺激を受けました。また学会期間中に海外の学生・先生方ともお話する機会が何度かありましたが、広い視野で歯科医療を学びまた研究していく上での



英語力の必要性を改めて実感させられました。学生時代から国際的な場に参加できたのは、本当に貴重な経験となりました。今後も今回の発表内容をより深め、将来的に自分の臨床につなげていけるような研究を続けていきたいと思えます。

私は4年生時からマルチドクタープログラムで研究を続けていますが、このような機会を得られたのは井上富雄教授、中村史朗先生をはじめとする口腔生理学教室の先生方の熱心なご指導があったからです。心より感謝致します。また学会参加にあたりお力添えいただいた各教室の先生方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

私は4年生時からマルチドクタープログラムで研究を続けていますが、このような機会を得られたのは井上富雄教授、中村史朗先生をはじめとする口腔生理学教室の先生方の熱心なご指導があったからです。心より感謝致します。また学会参加にあたりお力添えいただいた各教室の先生方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

私は4年生時からマルチドクタープログラムで研究を続けていますが、このような機会を得られたのは井上富雄教授、中村史朗先生をはじめとする口腔生理学教室の先生方の熱心なご指導があったからです。心より感謝致します。また学会参加にあたりお力添えいただいた各教室の先生方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

平成25年度科学研究費(研究活動スタート支援)の交付が内定しました

歯学部研究活動委員会委員長 上條 竜太郎

8月30日、日本学術振興会は平成25年度科学研究費補助金(研究活動スタート支援)の交付内定(新規課題分)を公表しました。本研究費は研究活動をスタート(あるいは再スタート)しようとする者を支援するものであり、前年秋の時点で科研費に応募できなかった者を対象としています。本学の交付内定者は5名で全員が歯学部です。内定を受けた研究者は田中 準一(口腔病態診断科学講座・口腔病理学部門)、相澤 怜(歯周病学講座)、張 家誠(歯周病学講座)、秋山 智人(歯科補綴学講座)、葭澤 秀一郎(歯科補綴学講座)です(敬称略)。今後のご研究に期待致します。

旗の台1丁目祭礼に参加しました

大学院2年(歯科麻酔学専攻) 平沼 克洋

このたび、旗の台1丁目祭礼に参加させていただきました。昭和大学には大学院生から在籍させていただいております。旗の台1丁目祭礼には昭和大学の地域交流促進の一環として本年度から教職員、学生が参加することになり、私も参加させていただきました。大学院生の片山先生、玄番先生、長田先生、口腔微生物学の桑田教授、谷口助教、歯学部学生の小池さん、岩澤さん、医学部、看護学校の学生らが横一列になってお神輿を担ぐという状況もとても楽しかったです。当日は炎天下でとても大変でしたが、御神酒を飲んで汗をかいて、終わった後にお風呂屋さんにも入って清々しいものでした。ぜひ来年も参加したいと思えます。



全日本医科歯科学生サーフィン選手権 で優勝しました

D5 渡部 晃大

サーフィン部は8月11日(土)、12日(日)に宮崎県日向市金が浜で行われた全日本医科歯科学生サーフィン選手権に参加しました。この大会において個人では6年の藤雄木亨修がCクラスで優勝とベストライディング賞、5年の渡部晃大がAクラスで準優勝、2年の藤井玲菜がボディボードクラスで3位、団体では総合優勝という成績を収めることができました。18年振り2回目の総合優勝で、部員全員が総合優勝を目指して必死に練習を重ねていただけにとっても嬉しく思います。

この結果は今までの部員の日々の努力と日頃から温かく支えてくださるOBの先生方のお陰であると思います。この結果で満足せずに、来年も良い結果を残すことができるよう、よりいっそう努力していきたいと思えます。今後とも応援よろしくお願いいたします。



オールデンタルで初優勝しました

D5 岩島 佑希

第45回オールデンタルバスケットボール大会が7月31日から8月5日にかけて千葉県で開催されました。参加全19校中、女子バスケットボール部は創設36年以来初の優勝という成績を収めることができました。

昨今の女子バスケ部は歯学部の人材確保が難しく、1年生1名、3年生1名、5年生4名の6名と、少人数で交代もままならない状況でしたが、抜群のチームワークと男子部の健闘(9位)も刺激となり、多数のOB、OGの皆さまの声援にサポートされ、夢のような結果を得ることができました。また、5年岩島佑希がMVPを獲得、男女総合では4位となりました。さらに今夏、女子バスケットボール部はオールデンタルに続け!と東医大、全薬大においても見事に優勝を遂げました。素晴らしい仲間と



このような感動を共有でき、最高の夏を過ごすことができました。これもひとえに、諸先生方、OB、OGならびに関係者の皆さまのおかげと感じております。これからもご支援、ご声援のほどよろしくお願いいたします。



昇任・採用

広報委員長 井上 富雄

須田 玲子准教授(歯周病学講座)
安藤 浩一助教(総合内科学部門)

認定医・専門医

広報委員長 井上 富雄

日本歯周病学会認定医

塚本 康巳、長濱 優、藤原 亮一、菅野 真莉加、
張 家誠、野瀬 冬樹

行事予定

広報委員長 井上 富雄

10月 1日(火): 大学院秋季入学式
10月11日(金)~13日(日): 旗が岡祭・いぶき祭
10月13日(日): ホームカミングデー
10月15日(火): 解剖慰霊祭
10月19日(土): 父兄会秋季部会
10月22日(火): 歯科医師臨床研修マッチング発表
10月23日(水): ツベルクリン反応検査
11月 2日(土): 推薦・編入学I期入試
11月15日(金): 創立記念日
11月17日(日): 歯学部進学説明会(旗の台)

編集後記

歯周病学講座 滝口 尚

夏の猛暑、酷暑はいつのことやらと、虫の音もようやく繁くなり急に秋の深まりが増してまいりました。今月は2020年東京オリンピック決定と大きな話題があり、前回の東京オリンピックは生まれていなかったことから、7年後にこの目で「本物!」を見ることができ、またその時に我々は何のような「おもてなし!」ができるのかと今から楽しみです。毎年9号の編集を担当していますが、今年は明るい話題が多いような気がします。復興途中の日本ですが、少しでも明るい話題を提供できたらと思います。末筆ではございますが、お忙しい中、原稿を執筆して頂いた皆様には心より感謝申し上げます。